

## 学会企画シンポジウム 5

### 高等学校における観点別評価の導入と大学入試の多様化

#### ——教育測定論的観点からのアプローチ——

企画・司会・話題提供：倉元直樹（東北大学）

話題提供：宮本友弘（東北大学）

話題提供：西郡 大（佐賀大学）

話題提供：加美山若奈井（宮城県佐沼高等学校）

企画・指定討論：南風原朝和（東京大学）

#### 企画趣旨：

高校では 2022（令和 4）年度入学者から学年進行で 2018（平成 30）年告示の新しい学習指導要領に基づく履修が始まった。今次の改訂では、新たに観点別評価が導入されるなど、学習成果の評価方法に大きな変化が見られる。すでに教員の負担が限界を超えている高校現場にあって、観点別評価の実装と運用は喫緊の課題である。一方、大学入試では、長年の間、学力検査以外の方法で情意面の資質・能力の評価を促す「大学入試の多様化」が進められてきた。観点別評価の導入は大学入試の現場をも揺るがす可能性がある。従来、調査書や入試の選抜資料という総括的評価で、測定の妥当性、信頼性の問題が真剣に取り上げられることは少なかった。「測定の信頼性は妥当性の必要条件である」という教育測定論の基本から観点別評価や選抜資料の課題を改めて捉え直したい。高校及び大学入試における多様な資質・能力の評価について、測定論的観点を加味した現実的な評価の在り方を探る。